

公立幼保連携型認定こども園教育・保育課程（標準）

1 本園の教育・保育の基本

子どもは、横須賀の宝であり、希望です。

子どもの人生の主役は、子ども自身です。

子どもは、人として尊重され、自分の意思で人生を歩み、大人は子どもを人として尊重し、子どもの歩みを支える役割を担わなければなりません。

本園の教育・保育の基本は、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第9条に規定する目標を達成するため、子どもの主体性及び自立性を育む教育・保育を基本とし、次の3つの子ども像の実現を通して「生きのびる力のある人」を育みます。

- ① 健康でたくましい子ども 「体」
→ くじけず、あきらめずに最後までやりぬく子ども
- ② 豊かな心の子ども 「徳」
→ 思いやりの心、感動する心を持った子ども
- ③ よく遊び学べる子ども 「知」
→ 自ら遊び、挑戦し、目的に向かいやり遂げる子ども

（1）乳幼児期にふさわしい環境

乳幼児期の子どもは、自分の生活から離れた間接的な体験や知識・技能を大人から一方的に教えられて身に付けることが難しく、自分の生活に密着した直接的かつ具体的な体験を通し、「健全な生活を送るために必要な人としての姿勢」、「人格形成の基礎となる豊かな心」、「物事に自ら主体的に関わろうとする前向きな意欲」などが培われる時期です。

このため、本園の生活は、次の5つの環境を通じた教育・保育を基本とします。

- ア 子どもが挑戦することができる環境
- イ 子どもが力を出し切れる環境
- ウ 人同士で関わり合い、つくり出す活動が体験できる環境
- エ 自然体験を通じた原体験ができる環境
- オ 社会や身近な地域と繋がった生活が体験できる環境

(2) 子どもの主体性及び自立性、「自分になる」過程を尊重した教育・保育

ア 子どもの主体性及び自立性

子どもの主体性や自立性を育む活動は遊びです。

遊びは、子どもが発達段階に応じて、感性を働かせたり、試したり、比べたり、人と関わる中で不思議なことを発見したり、面白いことに気付くなど、いわば、「学び方を学ぶ」活動です。

また、乳幼児期に夢中になって遊んだ体験は、主体的・対話的で深い学びに繋がります。

本園は、遊びを教育・保育活動の中心とし、保育者は子どもの活動を保障するため、教育的な要素を加えた環境の設定や次の5段階の関わりを行うことを基本とします。

優先度	関わり方	内 容
1	見守り	すぐに手を出さず、子どもの葛藤の原因を見極め、いつでも援助できるように注視し、見守る。
2	足場かけ	子どもの思いや意志を確認し、状況を整理・確認のうえ、解決策への見通しが持てるように援助する。 (解決策の方向付けはしない)
3	省察・うながし	「どうしたらいいのかな?」、「どうなっているのだろうね?」等と質問し、子ども自身、または友達同士で考えるように仕向ける。
4	誘導	問題の解決を促すヒントを出す。子どもが状況を理解できるような言葉かけを行う。
5	教導	解説や説明を行い、答えを教える。

イ 「自分になる」過程

子どもの発達の姿は、一人に目を向けると、家庭環境や生活経験の違いなどから、発達の歩みは一様ではありません。

本園は異年齢の子どもが集団生活する場ですが、子どもがゆっくりと「自分になる」過程を尊重し、一人一人の発達に配慮した生活ができる環境を作ることを基本とします。

3 本園の教育・保育の目標

(1) 人としての礎を育みます

乳幼児期の教育・保育は、人の生涯に渡る人格形成の礎をつくるものです。

価値観の多様化、時代の移り変わりのスピードの変化など、子どもがこれからの世界で生きのびるためには、今まで以上に人としての力をつけていく必要があると考えます。

本園は、生活を通した豊かな体験、さまざまな人との関わりを通し、次の5つの領域とねらいが相互に関連した活動を総合的に実践することで、人としての礎を育みます。

ア 健康

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。

イ 人間関係

他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。

ウ 環境

周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

エ 言葉

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

オ 表現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

<特に礎として育みたい力など>

① 基本的生活習慣

子どもは、保護者や保育者など特定の大人との愛着関係を通し、食事、排泄や睡眠などの生活リズムを身に着けます。

本園では、保護者と保育者の連携のもと、大人のめいっばいの愛情と子どもとの信頼関係を通し、子どもにふさわしい生活習慣を育みます。

② 自己肯定感

子どもは、「自分は愛される存在である」こと、「自分はやればできる」ことを実感することで、自己肯定感が育まれます。

本園の保育者は、いつでも子どもに愛情を持って適切な援助をすることや、

子どもが自分の力を試しながら、主体的に活動に挑戦できる環境の設定を通して、自己肯定感のある人を育みます。

③ 非認知能力

人の能力には、IQや学力のように数値化できる「認知能力」と前向きな意欲、自尊心、自制心、勤勉性、協調性などのように数値化できない「非認知能力」があります。

非認知能力は、乳幼児期に発達する人としての礎となる能力で、健康、体力、心、学力など、生涯に渡り大きな影響を及ぼすことがわかっています。

本園では、次の3つの非認知能力を育み、小学校以降の生活で育まれる基礎学力や専門知識を活かし、社会参加する人を育みます。

ア 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力

イ 疑問を持ち、考え抜く力

ウ 多様な人と関わりながら、目標に向けて協力する力

④ 人と関わる力

子どもが集団生活する環境は、少子化により家庭や地域で子どもが少なくなった現代においては貴重です。

子ども同士で「学び合い」、「助け合い」、時には「ぶつかり合い」をする体験や様々な人との関わりを通し、人と関わる楽しさ、葛藤、挫折感などを経験することで「相手の気持ちを思いやる力」、「相手に言葉で伝える力」、「相手の話を聞き、言葉を理解する力」が育まれます。

本園は、子ども同士の関わり、保育者との関わり、地域の人との関わりを通し、人と関わる力を育みます。

(2) 家庭や地域とともに育みます

教育・保育は、家庭や地域の人々の理解と協力があって、その目標が達成されます。

本園は、教育・保育の考え方、日々の子どもの生活など家庭や地域社会の理解と協力が得られるよう情報を発信し、家庭や地域の人々と連携しながら教育・保育を行います。

(3) 市民の子育て力を育みます

子育ては、保護者だけが担うのではなく、地域の人みんなで担うものです。本園は、地域子育て支援拠点事業（愛らんど）などの子育て支援事業を運営し、みんなで育てあう、育ちあう、学びあう場を提供します。

また、認定こども園で培われる教育・保育のノウハウも活用し、地域で子育てする市民の子育て力を育みます。

4 本園の教育・保育の内容に関する全体的な計画

(1) 子どもの発達過程

別紙1（発達のためやす）のとおり

(2) 具体的なねらい及び内容

別紙2（教育・保育課程）のとおり

5 教育時間・保育時間等

(1) 教育週数・教育時間（1号認定）

教育週数 52週

教育時間 5時間（9時00分から14時00分）

一時預かり 最大7時間（7時00分から9時00分、14時00分から19時00分）

閉園日 土曜日、日曜日、夏休み（指定する3日）及び

国民の祝日、年末年始（12月29日から1月3日）

(2) 保育時間等（2号認定及び3号認定）

標準時間 最大11時間（7時00分から18時00分）

短時間 最大8時間（8時00分から16時00分）

延長保育 最大4時間（7時00分から8時00分、16時00分から19時00分）

一時預かり 最大8時間（9時00分から17時00分）

愛らんど 6時間（10時00分から16時00分）

閉園日 日曜日、国民の祝日及び年末年始（12月29日から1月3日）

	おおむね0歳	おおむね1歳	おおむね2歳	おおむね3歳	おおむね4歳	おおむね5歳	おおむね6歳
健康	<ul style="list-style-type: none"> 首がすわる (3ヶ月～) 寝返り (5ヶ月) 座る (6ヶ月) 腹這い・ずり這い・ハイハイ 伝い歩き 歩く 	<ul style="list-style-type: none"> 持っているものを何でも口に入れる おもちゃを持つ(わし掴み)・両手の協応(モノを打ち合わせる) 指先の機能の発達(押す・つまむ・めくる) 走る 歩行時に交互に腕を振る 階段を一段づつ上る 	<ul style="list-style-type: none"> 両足ジャンプ 階段の上り下り 指先の機能の発達(押す・つまむ・めくる) 走る 歩行時に交互に腕を振る 階段を一段づつ上る 	<ul style="list-style-type: none"> 両足ジャンプ 階段の上り下り 指先の機能の発達(押す・つまむ・めくる) 走る 歩行時に交互に腕を振る 階段を一段づつ上る 	<ul style="list-style-type: none"> 全身のバランスがとれるようになる (ケンケンパ・かかしのポーズなど) 縄跳びをとぶ スキップをする 指先の機能の発達(押す・つまむ・めくる) 走る 歩行時に交互に腕を振る 階段を一段づつ上る 	<ul style="list-style-type: none"> 全身運動が滑らかで巧みになる 縄跳びをとぶ スキップをする 指先の機能の発達(押す・つまむ・めくる) 走る 歩行時に交互に腕を振る 階段を一段づつ上る 	<ul style="list-style-type: none"> 全身運動が滑らかで巧みになる 縄跳びをとぶ スキップをする 指先の機能の発達(押す・つまむ・めくる) 走る 歩行時に交互に腕を振る 階段を一段づつ上る
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 特定の大人との情緒的きずなの形成 人見知り・後追いが激しくなる あやすと笑ったり視線が合うようになる 身近な人に興味をもつ 探索活動 	<ul style="list-style-type: none"> 自我のめばえ 特定の大人との親密な関わりを持つ 一人遊び 	<ul style="list-style-type: none"> 自己主張のはじまり 貸し借り・順番・交替など 平行遊び 気の合う友だちと遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 自己主張のはじまり 貸し借り・順番・交替など 平行遊び 気の合う友だちと遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な決まりや約束を守る 良いこと悪いことに気付く 手伝いをする事を楽しむ 周りの子を思いやる 異年齢に親しみをもち 	<ul style="list-style-type: none"> 自立心が高まる 共同的な活動を楽しめる 仲間意識と役割分担 感謝の気持ちを持つ 人の役に立つことに喜びを感じる 集団遊び 集団活動を意識する 	<ul style="list-style-type: none"> 自立心が高まる 共同的な活動を楽しめる 仲間意識と役割分担 感謝の気持ちを持つ 人の役に立つことに喜びを感じる 集団遊び 集団活動を意識する
環境	<ul style="list-style-type: none"> 心地よい環境がわかり喜ぶ (沐浴時・散歩時等) * 欲しいものを見る (3カ月～) 	<ul style="list-style-type: none"> 散らかす動作がさかんになる 好きな玩具や遊具で遊ぶ 好奇心や探究心が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のマーク・持ち物がわかる 自分のもの、他人のものに気付く 簡単な片付けをする 身近な物を大切に 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のマーク・持ち物がわかる 自分のもの、他人のものに気付く 簡単な片付けをする 身近な物を大切に 	<ul style="list-style-type: none"> 自然など身近な環境に関心を持つ 自然物を取り入れて遊ぶ 数量や図形などに関心を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> 生き物の世話・観察をする 植物や野菜の世話や収穫を喜ぶ 標識や文字・時間などに関心をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> 生き物の世話・観察をする 植物や野菜の世話や収穫を喜ぶ 標識や文字・時間などに関心をもつ
言葉	<ul style="list-style-type: none"> 人の声に反応して追視する アーウーと声を出す 声を出して笑う 快、不快を声にだして表現する 	<ul style="list-style-type: none"> バイバイ、パチパチがわかる 音声を模倣しようとする 「まんま」など意味のある言葉を発する子もいる 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちや保育者との会話を楽しむ 思いを言葉で伝えようとする なぜ? どうして? の質問が多くなる 言葉遊びを楽しむ(しりとりなど) 絵本の内容がわかり楽しく聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちや保育者との会話を楽しむ 思いを言葉で伝えようとする なぜ? どうして? の質問が多くなる 言葉遊びを楽しむ(しりとりなど) 絵本の内容がわかり楽しく聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 会話の成立 言葉遊びを楽しむ(しりとりなど) 絵本の内容がわかり楽しく聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を(字)を読む 字を書こうとする 昨日、今日、明日等の時間列がわかり話そうとする 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を(字)を読む 字を書こうとする 昨日、今日、明日等の時間列がわかり話そうとする
表現	<ul style="list-style-type: none"> 泣いたり笑ったり怒ったりする 感情が豊かになる 気に入らなると激しく泣くこともある 	<ul style="list-style-type: none"> 手遊びを楽しむ 歌に合わせて体を動かす 積み木を22. 3個重ねる クレヨン画等 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて体を動かす (リズム・体操) なりきり遊び ブロックで遊ぶ 丸を描く 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて体を動かす (リズム・体操) なりきり遊び ブロックで遊ぶ 丸を描く 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器遊びを楽しむ ごっこ遊びを楽しむ (お店屋さんごっこ、おままごと など) 折り紙遊び 丸を描く 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が考えた必要な物などを作る 自分の役になりきる (劇遊び・オペレッタ) ぬり絵、うつし絵などを楽しむ 鉛筆を使い書くことに興味を持つ(お手紙ごっこ) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が考えた必要な物などを作る 自分の役になりきる (劇遊び・オペレッタ) ぬり絵、うつし絵などを楽しむ 鉛筆を使い書くことに興味を持つ(お手紙ごっこ)

ねらい		年齢		おおむね6ヶ月未満	おおむね6ヶ月から1歳3ヶ月未満	おおむね1歳3ヶ月から2歳未満	おおむね2歳	おおむね3歳	おおむね4歳	おおむね5歳	おおむね6歳	
内 容	心と体の健康	・明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう ・自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする ・健康・安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける		・保育者等や友達と触れ合い、安定感を持って生活する ・進んで戸外で遊ぶ ・保育者等や友達と食べることを楽しむ ・いろいろな遊びの中で十分に体を動かす ・健康な生活のリズムを身につける				・様々な活動に親しんで取り組む	・身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする ・園生活の仕方を知り、自分から進んで行動する ・自分の健康に関心を持ち、病気の予防等に必要な活動を進んで行う ・地域の生活に興味や関心を持ち保育所内外の行事などに喜んで参加する ・危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する			
	人とのかかわり	・園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう ・身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感を持つ ・社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける		・安心できる保育者等との関係の中で、身近な大人や友達に関心を持ち、遊んだり親しみを持って自ら関わろうとする ・保育者等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう ・自分でできることは 自分でする				・よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する ・身近な友達との関わりを深め、異年齢の友達などに思いやりや親しみを持つ ・友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする ・友達によさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう ・自分で考え、自分で行動する ・共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う ・自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く ・友達と関わりながら喜びや悲しみを共感し合う ・友達と一緒に活動する中で協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ ・高齢者を始め地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ				
	環境とのかかわり	・自然と触れ合う中で様々なことに興味や関心を持つ ・身近な環境の中で、発見を楽しんだり、考えたりする ・身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする		・自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ ・園内外の行事などに喜んで参加する ・安心できる人や環境の中で、聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする ・身近な物を大切にす					・季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く ・生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ ・身近な物や遊具に興味を持って関わり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ ・身近な動植物に親しみを持ち、いたわったり、大切にしたり、作物を育てたり味わうなどして生命の尊さに気付く ・日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心を持つ ・自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く ・生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心を持つ			
	言葉の育ち	・自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう ・人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝えあう喜びを味わう ・生活に必要な言葉が分かるようになる ・絵本や物語などに親しみ、友達と心を通わせる		・保育者等や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみを持って聞いたり、話したりする ・絵本や物語などに親しむ ・親しみを持って日常のあいさつをする					・したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを 尋ねたりする ・したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する ・生活の中で必要な言葉が分かり、使う ・生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く ・人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す ・いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする ・日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう			
表現する力	・いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ ・感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ ・生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ		・生活の中で様々なものに心をとめ、気付いたり感じたりするなどして楽しむ ・音楽に親しみ、歌を歌ったり、楽器などで楽しさを味わう					・生活の中で多様な体験を通して、イメージを豊かにする ・感動したことを伝え合う楽しさを味わう ・感じたこと、考えたことなどを自由に表現する ・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ ・音楽に親しみ、歌を歌ったり、楽器などで楽しさを味わう ・描いたり、作ったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする ・自分のイメージを動きや言葉などで表現し、演じる楽しさを味わう				

《教育・保育の実施上の配慮事項》

1. 満1歳未満の園児の保育に関する配慮事項

- 1 疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生の多いことから、園児一人一人の発育及び発達の状態や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行う。
- 2 園児一人一人の発育歴の違いに留意しつつ、欲求を適切に満たし、特定の保育者等が応答的にかわるよう努める。
- 3 乳児期の園児の保育に関する職員間の連携や学校医との連携を図り、園児の健康及び安全に関する配慮事項を踏まえ、適切に対応する。
栄養教諭や栄養士等、養護教諭や看護師等が配置されている場合は、その専門性を生かした対応を図る。(平成26年4月30日告示 幼保連携型認定こども園教育・保育要領第1章の第3の5参照)
- 4 保護者との信頼関係を築きながら保育を進めるとともに、保護者からの相談に応じ、保護者への支援に努める。
- 5 担当の保育者等が替わる場合には、園児のそれまでの経験や発達の過程に留意し、職員間で協力して対応する。

2. 満1歳以上満3歳未満の園児の保育に関する配慮事項

- 1 特に感染症にかかりやすい時期であるため、体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行うとともに、適切な判断に基づく保健的な対応を行う。
- 2 食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなど、生活に必要な基本的な習慣については、園児一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、園児が自分でしようとする気持ちを尊重する。
- 3 探索活動が十分出来るように、事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え、全身を使う遊びなど様々な遊びを取り入れる。
- 4 園児の自我の育ちを見守り、その気持ちを受け止めるとともに、保育者等が仲立ちとなって、友達の気持ちや友達とのかかわり方を丁寧に伝えていく。
- 5 情緒の安定を図りながら、園児の自発的な活動を促していく。
- 6 担当の保育者等が替わる場合には、園児のそれまでの経験や発達の過程に留意し、職員間で協力して対応する。

3. 満3歳以上の園児の保育に関する配慮事項

- 1 生活に必要な基本的な習慣や態度を身に付けることの大切さを理解し、適切な行動を選択できるよう配慮する。
- 2 園児の情緒が安定し、自己を十分に発揮して活動することを通して、やり遂げる喜びや自信を持つことができるよう配慮する。
- 3 様々な遊びの中で、全身を動かして意欲的に活動することにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、園児の興味や関心が戸外にも向くようにする。
- 4 けんかなど葛藤を経験しながら次第に相手の気持ちを理解し、相互に必要な存在であることを実感できるよう配慮する。
- 5 生活や遊びを通して、きまりがあることの大切さに気付き、自ら判断して行動できるよう配慮する。
- 6 自然と触れ合う中で、園児の豊かな感性や認識力、思考力及び表現力が培われることを踏まえ、自然とのかかわりを深めることができるよう工夫をする。
- 7 自分の気持ちや経験を自分なりの言葉で表現することの大切さに留意し、園児の話し掛けに応じるよう心掛け、また、園児が仲間と伝え合ったり、話し合ったりすることの楽しさが味わえるようにする。
- 8 感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で創意工夫を凝らして自由に表現できるよう、保育に必要な素材や用具を始め、様々な環境の設定に留意する。